

**オモ二主日
説教**

母の祈り

彼女の表情はもはや前ようではなかった

＜サムエル記上1:1-28＞

石橋真理恵 伝道師(全国教会女性連合会総務)



イスラエルに王がなく、それぞれ自分の目に正しいとする
ことを行っていた時代、サムエルが生まれました。サムエル
によってイスラエルの民は一つとなり、イスラエル王国の建
設が始まりました。

サムエル記上を通して、主がサムエルをどのようにに用い、
またサムエルがどのように主に仕えたのか記されています
が、この偉大な指導者であり、信仰者であるサムエルの誕生
には母ハンナの祈りがあったことを忘れてはいけません。サ
ムエルは母ハンナの祈りによって生まれたのです。サムエル
記上1章を通して母ハンナの信仰をとみにみていきましょう。

1. ハンナの苦しみ

エフライムの地に住むエルカナには二人の妻がいました。
一人はハンナ、もう一人はペニナで、ペニナには子どもがい
ましたが、ハンナには子どもがいませんでした。ハンナは夫
から愛されていましたが不妊に悩み、ハンナを敵視するペニ
ナは不妊のことでハンナを思い悩ませ、苦しめていました(6
節)。

7節「毎年このようにして、ハンナが主の家を上るたびに、
彼女はペニナのことで苦しんだ。今度もハンナは泣いて、何
も食べようとしなかった。」ここからハンナの苦悩の日々が
長く続いていたことが分かります。その苦悩は夫エルカナで
も慰めることはできませんでした。長年思い悩み、苦しみ
の中で幾度となく涙をながしたハンナですが、今回は泣くだけ
では終わらせませんでした。

ハンナが取った行動は何でしょう。9節に「ハンナは立ち
上がった」とあります。ハンナはもう泣くだけではいられな
いと立ち上がったのです。この短い言葉にハンナの心の変化
がうかがえます。

その場で立ち尽くしていても、問題の解決になりません。
私たちが立ち上がる信仰が必要です。

2. ハンナの祈り

ハンナは立ち上がり、「悩み嘆いて主に祈り、激しく泣い
た(10節)」と主に祈ったのです。その祈りの様子を見てい
た祭司エリは、ハンナがお酒に酔っているのだと誤解するほ
どのものでした(12～13節)。

ハンナは主の御前に心からの願いを注ぎ出しました(15

～16節)。どこにも向けることのできなかった心の苦悩が、
主へと向いたのです。ハンナは「万軍の主よ、はしための苦
しみを御覧ください。はしのために御心を留め、忘れることな
く、男の子をお授けくださいますなら、その子の一生を主に
おさげし、その子の頭には決してかみそりを当てません」
と誓いを立てて祈りました(11節)。

ハンナは神のみが一番の理解者であり、不可能を可能にす
ることができるお方だと信じていました。祈りの後、「ハン
ナの表情はもはや前ようではなかった(18節)」とあります。
まだ何も現実が変わっていません。しかし、祈りによってハ
ンナの苦悩は消え去り、平安へと変えられたのです。これが
祈りがもたらす力です。

私たちはどうでしょう。苦悩の中で心はどこに向くでしょ
う。ハンナは夫から愛され、苦しむ妻をエルカナは慰めます
(8節)。しかし、夫の言葉もハンナの涙を拭うことはできま
せませんでした。ハンナの心は主へと向きました。なぜなら、本
当の慰めは神にしか与えられないからです。私たちの心は苦
悩の中でどこに向いているのでしょうか。

3. ハンナへの祝福

主の御前に心からの願いを注ぎ出したとき、主は彼女を御
心に留められ(19節)、ハンナは身ごもり男の子を生みました
。男の子の名をサムエル(その名は神)と名付けました。
ハンナは誓いを果たすべくサムエルを主にささげました(24
～28)。この決断は容易なことではなかったと思います。し
かし、ハンナは息子サムエルを主にゆだねたのです。その後、
主はハンナを顧みられ息子三人と娘二人を産みました(2:
21)。主は、ハンナの心の傷を癒すだけでなく、イスラエル
を一つにする偉大なリーダーの母という祝福をお与えになり
ました。一人の女性の祈りによってダビデ、ソロモンと続く
イスラエル王国の基礎が築かれたのです。

ハンナの祈りを聞いてくださった神は、今も私たちの祈
りを聞いてくださっています。時に涙を流し祈る時もあるで
しょう。しかし、私たちの涙に力があるのではなく、涙の祈
りを聞いてくださる神が力あるお方なのです。苦悩の中でも
心を主に向け、主の御前に心からの願いを注ぎ出し祈る者
となりましょう。

「わたしはあなたの祈りを聞き、涙を見た。」(イザヤ書38:5)

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。
10名様～200名様様の会議及び宿泊研修(50名)も可能。

◆スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
◆韓国文化教室(チャング・カヤグム・舞踊) ◆韓国語講座
◆YMCA東京日本語学校(3ヶ月～2年、短期研修)

関西◆にほんご教室(新規開講・募集中) ◆韓国民俗芸術科(舞踊・チャンゴ)

| 税込 | 平日 | 休日 |
|------|---------|---------|
| シングル | ¥6,700 | ¥6,200 |
| ツイン | ¥10,500 | ¥9,800 |
| トリプル | ¥13,500 | ¥12,600 |

※朝食¥200(宿泊者価格)

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/> *会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611

関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

全国の各地方女性会が定期総会開催

関東地方会 第66回定期総会

第66回関東地方教会女性連合会定期大会が、2018年3月21日、横浜教会で各教会から送られた31名の総代が集って開催された。

開会礼拝は、李明忠牧師(横浜教会)が「ブリスキラとアクラ」(行18:1～3)という題目で説教をし、李恵淑牧師(愛の教会)の司式により聖餐式が行われた。

2部の会議には、朴英遠会長の司会により来賓紹介、各種報告および、全国女性会会長の李炫知勸士と総務の石橋真理恵伝道師を招き宣教110周年記念式中に行われる全国女性会修養会の意見交換など和気藹々とした雰囲気の中で定期大会を終えた。

(報告：金頭貞)



関西地方会 第65回定期総会

2018年3月22日(木) 京都教会において関西地方教会女性連合会第65回定期大会が13教会50名の代議員中49名の出席で開催された。

開会礼拝は朴成均牧師(関西地方会会長)による「神の愛、キリストの愛」(ローマ書8章31～34節)という題目の説教がなされた後、朴愛仙牧師(今福)の司式のもと聖餐式が執り行われた。

議事は金錦順会長の議長とし、総会長の金鐘賢牧師の祝辞をいただいた後、各種報告と5件の献議案が審議され成立した。(報告：全早苗)



西南地方会 第64回定期総会

好天の中、西南地方女性連合会2018年度第64回定期大会を福岡教会で6つの教会から20名の総代が集まり開催した。

開会礼拝は、金仁果牧師による「私を愛しているか」(ヨハネ21:15～23)のメッセージに、皆心から主を愛しますと答える恵みの時間を持った。また、西南地方会会長李恵蘭牧師による「チャレンジする女性」も力強い御言葉だった。

全国女性連合会から石橋真理恵総務も参加して下さり皆が感謝した。まだ女性会に参加できない教会があるが、共に笑い共に泣く西南地方女性会になることを祈りつつ主に栄光と感謝を捧げる。

(報告：韓榮蘭)



中部地方会 第58回定期総会

2018年4月5日(木)、名古屋教会にて、中部地方会女性連合会「第58回定期大会」が開催された。新井由貴牧師が「喜びを持って」(フィリピの信徒への手紙1:12～21)という題で説教した後、新井牧師による聖餐式が執り行われた。

会務は、宋福姫会長の司会のもとで始まり、活動計画や、決算と予算案の審議などが承認された。恵みの中で大会が終わった後、閉会礼拝には石橋真理恵伝道師(全国教会女性連合会総務)が「イエスキリストの謙遜」という題で説教があり、中部地方会会長崔和植牧師の祝辞を持って閉会礼拝と定期大会を終えた。

中部地方は地域的な範囲が広く集まりにくい上に、教会の信徒数の減少により代議員数も少なくなっているが(総26名)、今年度は名古屋教会の金誠淑長老と浜松教会の朴貞枝長老の将立もあり、教会女性としての新しい連帯の可能性を感じる恵み深い時間となったことを神さまに感謝する。

(報告：宋福姫)



西部地方会 第33回定期総会

西部地方教会女性連合会第33回定期大会が2018年4月17日(火) 川西教会において14教会30名(うち代議員15名)の出席で開催された。

開会礼拝では韓世一牧師(神戸教会)による「神の祝福を確信しよう」(サムエル上1:12～18)と題してのメッセージがあり、続いて李重載牧師(川西教会)の司式により聖餐式がとり行われた。

会議には崔美恵子会長の司会のもと、歴代会長、新代議員、来賓紹介の後、全国教会女性連合会総務石橋真理恵伝道師の祝辞があった。議事に入り、2018年度予算案を審議し承認され、その後2018年度活動方針案が討議された。6月には蔚山チャリティコンサート出演も予定されている。

(報告者：尹豊子)



豊かな味、豊かな心。



代表取締役 呉永錫 (東京希望キリスト教会 長老)

四谷本店：東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

中部地方会

合同信徒研修会を開催 「光と塩の教会」主題で女性会と合同

2018年3月20日(火)～21日(水)、「光と塩の教会」という主題のもと、金必順牧師(界教会)を講師に迎え、あいち健康プラザにて中部地方会・中部地方教会女性連合会が合同で信徒研修会を開催し、40名が参加した。

金必順牧師は、光と塩の教会という主題をもって、今日における教会のあり方や、信徒の役割、男女の役割、そしてこれからの宣教の課題について、3回の講演を行った。今までの教会の歩みを顧み、これからの教会の使命について深く考えさせられる、恵み深いひと時があたえられた。



西部女性会

復活節合同讃美礼拝開催 6教会から160名が参加し、讃美

西部地方教会女性連合会主催による第21回復活節合同讃美礼拝が、2018年4月1日復活節の午後、神戸東部教会堂にて開催され160名が参加し盛大に行われた。この讃美礼拝は2年ごとに女性会が開催する合同讃美礼拝である。遠方は岡山を始め、西部地方会の6教会と復活イエスキリスト教会(単立)の特別参加があり、素晴らしい讃美礼拝の時間を持った。

第1部の開会礼拝では李聖雨牧師(明石教会)の「最高の恵み」という題での説教の後、第2部、合同讃美礼拝が開かれた。子どもから大人までが参加し、各教会が特徴ある曲で復活の喜び溢れる讃美を主に捧げた。回を重ねるにつれ女性会会員だけではなく、全信徒が参加するようになり、西部地方会の信徒達の交流を深める行事となった。最後に参加者全員で「主の再臨の日まで」を大合唱し、李聖雨牧師の祝福をもって終わった。

(報告: 尹豊子)



KCCJ人権シンポジウム」開催 「天皇退位と即位に関する声明文(案)」作成

2018年「第17回KCCJ人権シンポジウム」を京都南部教会において4月8日～10日の日程で開催した。参加者は43名。今回の人権シンポジウムの声明書にあるように、いろいろな視点から発題・聖書研究を聞くことができたこと、また熊本・大分地震発生から2年が過ぎ今なお仮設住居での生活を続けなければならない被災者を、継続して支えていくことを確認した。また来年予定されている「天皇退位と即位に関する声明文(案)」を参加者たちによって作成し常任委員会へ提出、承認された。今年はKCCJ宣教110年の節目であり、今後とも小さき者のいのちに寄り添い、耳を傾け続けるKCCJであることをあらためて思わされた。

(報告: 社会委員会)



全国教会祈祷カレンダー

* 宣教委員会は今年、毎主日に全国の各教会のために祈りをささげる祈祷カレンダーを製作しました。共に祈りで結ばれましょう。祈った後は、その旨を伝えましょう。

在日大韓基督教会宣教委員会

5月に全国教会が祈祷する教会

- ・ 6日: 千曲ビジョン伝道所(崔鍾福牧師)
- ・ 13日: 浜松教会(権潤日牧師)、豊橋教会(鄭守煥牧師)
- ・ 20日: 岡崎教会(許光涉牧師)、豊田めぐみ伝道所(鄭守煥牧師)
- ・ 27日: 名古屋教会(新井由貴牧師)、名古屋南教会(全炳玉牧師)

大阪第一民宿[OSAKA STAY]

代表: 鄭洪権長老 / 安姫子勸士(大阪教会)

大阪市生野区中川西3-9-6(大阪教会近く)

Tel 06-6777-7033 / 携帯090-8538-4433

Kakao ID: nttip0033

Email: osakastay@dune.ocn.ne.jp

http://www.osaka-stay.net

大阪市指令許可書11549号

熊本だより

熊本・大分地震発生から2周年を迎え

12018年4月16日、日本基督教団錦ヶ丘教会において「熊本・大分地震2周年記念礼拝」を捧げた。参加者は45名。KCCJからは金柄鎬総幹事、鄭守煥社会委員長、西南地方会からは李恵蘭地方会長が出席。九州教区総会議長 梅崎浩二牧師の挨拶のあと司会鄭守煥によって礼拝がはじまり、九州教区総会副議長 日下部遣志牧師よりルカ24章13-35節から「共に歩むイエス」の題目でメッセージがあった。李恵蘭牧師の祝福で礼拝を終えた。2部には被災した教団 熊本・大分地区の報告、エルピスくまもと(金聖孝牧師)、福島移住女性支援(佐藤信行)から報告がなされた。

震災による死者264名(関連死を含む)、仮設住宅での避難者約3万8千人(本年4月時点)、他にも軒先避難者などもまだおられることを覚え、KCCJの各教会に熊本・大分被災者支援の献金をあらためてお願いしたい。

(社会委員長 鄭守煥)



2018年「第17回 KCCJ人権シンポジウム」

声 明 書

『ついに、我々の上に／霊が高い天から注がれる。荒れ野は園となり／園は森と見なされる。
そのとき、荒れ野に公平が宿り／園に正義が住まう。
正義が造り出すものは平和であり／正義が生み出すものは／とこしえに安らかな信頼である。
わが民は平和の住みか、安らかな宿／憂いなき休息の場所に住まう。(イザヤ書32章15～18節)』

1. はじめに

2018年、在日大韓基督教会（KCCJ）はこの日本の地で宣教110年という節目を迎えた。私たちは、韓(朝鮮)半島と日本の狭間を生き抜いた「在日キリスト者」(寄留の民)の歩みを振り返るとともに、KCCJに与えられている使命を再確認し、小さき者のいのちに寄り添う教会となるための課題を共有し、これからのKCCJの未来像を展望するためにKCCJ京都南部教会にて「第17回 KCCJ人権シンポジウム」を2018年4月8日～10日に開催した。

総会主題：「共に生きるいのちの天幕をひろげよう！」副題：KCCJ110周年といのちの宣教「平和・人権・共生社会を考える」を掲げ、「在日韓国人キリスト者として被災地に派遣されて一ナルドの香油を携えて―(金聖孝)」「聖書研究(古賀清敬)」「朝鮮学校高校「無償化」裁判報告(金星姫)」「隣保から幅広い多文化共生～東九条の様々な取り組み～(前川修)」「『出会い』をつくりだそう―ひとりのキリスト者として―(康玲子)」「日本・在日教会の宣教課題―RAIK退任にあたって(佐藤信行)」の発題者と講演者から日本に生きる全てのマイノリティと共に歩むためには何が必要かを学び、さまざまな立場、視点から差別と偏見に晒されている小さき者のいのちの叫びに耳を傾けることの大切さを再認識するに至った。

2. KCCJの働きと使命

今、自国優先、経済優先を掲げる国々では貧富の差が拡大し格差社会が固定化されてようとしている。その流れの中で排外・排他主義、人種差別主義が世界を席卷しようとしている。日本においてもその影響は決して少なくない。

KCCJは1908年より韓(朝鮮)半島から生きる糧を求めて渡日することを余儀なくされた者、また日本の労働力を補うために徴用された者、本人の意思に関係なく徴兵され戦争の最前線へと送られた者やその家族のより所であった。また1945年の日本の敗戦後も差別と偏見によって社会の片隅で生きることを余儀なくされた同胞とその子孫の避け所であった。これからのKCCJは韓国のみならずアジア諸国からの移住労働者や外国人技能実習生、格差社会によって置き去られようとしている経済的弱者、被差別部落、日本の地に生きるアイヌ・沖縄の少数者、自然災害で忘れられようとしている被災者の方々と共に手を携えて生きていくことが求められている。とりわけヘイトスピーチに晒されている朝鮮学校の子どもたちのいのちを共に守っていく必要がある。またKCCJは地域社会の共生のまちづくりのために働き、共生の道を指し示す証し人となる宣教を目指さなければならない。

KCCJが今あるのは神が信仰の共同体として同胞のより所として土台を据え、すべての民に開かれたいのちの天幕をひろげていく使命が神から与えられているからである。

3. 決意表明

共に生きるいのちの天幕をひろげるには、マイノリティの苦難の歴史を記憶にとどめ語り継ぐこと、小さき者のいのちに寄り添い喜びも痛みも分かち合うキリスト者としての役割をこれまで以上に果たしていくことが必要である。そのために日本キリスト教協議会やRAIK、KCC、西南KCC、マイノリティ宣教センター、各地外キ連、外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト者連絡協議会などの機関や団体と連帯し、すべてのマイノリティのいのちの尊厳と権利が守られ、神の正義と平和が実現されるときまで人と人を分け隔て格差を生み出している社会構造の問題を提起し、偏見と差別を黙認することなく小さき者とともに叫び声を社会に発信し、共に生きる社会をめざして多民族・多文化の共同体をつくることを以下のように決意する。

- 1) 熊本被災者支援を継続する
- 2) 朝鮮学校補助金打ち切り・朝鮮高校無償化裁判を支援する
- 3) 外国人住民基本法の制定を求める
- 4) ヘイトスピーチ根絶のために人種差別撤廃法制定を求める

2018年4月10日

在日大韓基督教会 「第17回 KCCJ人権シンポジウム」 参加者一同
在日大韓基督教会 社会委員会
在日韓国基督教会館(KCC)
在日韓国人問題研究所(RAIK)
西南在日韓国基督教会館(西南KCC)